

「プレスネット」(vol.902)  
平成 30 年 4 月 19 日掲載



広島大学の東広島キャンパス内にある一筋の流れが角脇川の上流である。この川筋の南側は工学部、生物生産学部で統合移転前は「ぶどう園」であった。今は「ぶどう池」としてその名を留めている。



井上 宣邦  
(無線工学)

## 広島大学東広島キャンパス雑感



平木池遺跡とこうぞう畑

### 地元の古老が皆知る「こうぞう畑」

この付近は「こうぞう畑」と言われており、理学部付近が「平木池遺跡」であった。統合移転に伴う事前調査が最初に着手された場所、古墳時代後半の集落跡であることが確認されている。調査が開始された当時、

この別名である「こうぞう畑」であるが、江戸時代の藩に差し出された「享保差出帳(下見村)には人口、耕作面積の他、茶ノ木、竹、柿の木など木一本一本に課せられた税などもろもろの状況が記録されており、その中に

幼少のころ、古老たちがこの付近は江戸時代から明治時代にかけて土葬が行われていたと話していたのを思い出す。この付近は掘れば「骨が出る」と言われていた(上図)。

「楮島四丁に御免相成」の一行がある。この時代下見にも楮の木が植え付けられていたのか自生していたのか定かではないが、こうぞう(紙の原料)が収穫されていたことは間違いないことと思われる。

広島大学マスタースは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。  
【問い合わせ】  
kazuwp@hiroshima-u.ac.jp(渡部)



過去の記事

広島大学の統合移転が見田口、御園宇に決定するとその造成に伴う事前埋蔵文化財調査が開始され、昭和54年から発掘調査が行われた。東広島キャンパス付近の遺跡は平木池遺跡の他、東方ガラ寮跡、西方ガラ遺跡など十数カ所に在り調査は広島県埋蔵文化財センター、広島大学が行った。